

昭和大学病院

2023年6月22日

説明資料



<病床数について（昭和大学病院・附属東病院）>

昭和大学病院：815床

昭和大学病院附属東病院：199床

常勤医師数：663名

臨床研修医：70名

【2023年4月1日現在】

9 : 1



<充実した指導体制>

- ・当院では厚生労働省認定指導医が2023年4月1日現在、227名が在籍しており適切な指導を受けることができる。
（本学全体では550名の指導医が在籍）
- ・本学では指導医講習会を年2回開催し、毎年72名の指導医を育成している。

昭和大学病院の研修プログラムの特徴

<2年次の選択科目が採用病院に限定されず、 幅広い選択肢から選べる>

- 7つの附属病院だけでなく、保健・医療行政施設や地域医療施設からも選択可能（100診療以上）。

<地域医療施設が豊富である>

- 全国20箇所以上で地域医療研修を行える。
（北海道、秋田、群馬、栃木、茨城、神奈川、高知、沖縄他）

<他大学出身者の割合が多い(全附属病院)>

- 昭和大学出身と他大出身の割合は、おおよそ5対5の割合。

2021年度採用者	97名	(昭和大学出身51名：他大学出身46名)
2022年度採用者	96名	(昭和大学出身50名：他大学出身46名)
2023年度採用者	93名	(昭和大学出身46名：他大学出身47名)

プログラム紹介

自主性尊重型プログラム

小児科キャリアパス支援型プログラム

産婦人科プログラム

自主性尊重型プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 年次	一般外来 (2週間)						救急 診療科 (4週間)	産婦人科 (4週間)	外科 (4週間) (対象の 外科より 1科選択)	一般外来 (1週間)	小児科 (4週間)	麻酔科 (8週間)	
	内科 (24週間) (8週間単位で対象の内科より3科選択)									一般外来 (1週間)			
2 年次	救急医療センター(8週間) (救命救急科×2 または 救命救急科×1+ 救急診療科×1の いずれかを選択)		一般外来 (1週間)	精神 神経科 (4週間)				選択科目 (32週間) (4週間単位で選択可能。※上限は設けない)					
			地域医療 (4週間)										

※一般外来研修4週以上を含む

①内科は全9診療科から3科を8週間ずつ選択

呼吸器・アレルギー内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、脳神経内科、腫瘍内科

②外科は以下より1つ選択する

呼吸器外科、心臓血管外科、消化器・一般外科、脳神経外科

③一般外来研修は内科、小児科、地域研修時に並行研修を行う

小児科キャリアパス支援型プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	一般外来 (2週間)				救急診療科 (4週間)	麻酔科 (8週間)			精神神経科 (4週間)	一般外来 (1週間)		
	内科 (16週間) (8週間単位で対象の内科を2科選択可能)									小児科 (16週間)		
2年次	救急医療センター(8週間) (救命救急科×2 または 救命救急科×1+ 救急診療科×1の いずれかを選択)		内科 (8週間) (8週間単位で別掲の 内科を1科選択可能)		一般外来 (1週間)	外科 (4週間) (対象の 外科より 1科選択)	産婦人科 (4週間)		小児選択 (8週間) ※1		小児科 (12週間)	
					地域医療 (4週間)							

※一般外来研修4週以上を含む ※1 小児選択は「小児外科・耳鼻咽喉科・産婦人科」より1科を選択

①内科は全9診療科から3科を8週間ずつ選択

呼吸器・アレルギー内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、脳神経内科、腫瘍内科

②外科は以下より1つ選択する

呼吸器外科、心臓血管外科、消化器・一般外科、脳神経外科

③一般外来研修は内科、小児科、地域研修時に平行研修を行う

④小児選択：小児外科、耳鼻咽喉科、産婦人科より選択

小児科医として経験が必要な診療科を小児選択科としている。

産婦人科プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年次	一般外来 (2週間)				救急 診療科 (4週間)	外科 (4週間) (対象の 外科より 1科選択)	一般外来 (1週間)		産婦人科 (8週間)	麻酔科 (8週間)		
	内科 (16週間) (8週間単位で対象の内科を2科選択可能)						内科 (8週間) (8週間単位で別掲の 内科を1科選択可能)					
2 年次	精神 神経科 (4週間)	一般外来 (1週間)	選択科目(8週間) (4週間単位で選択可 能。※上限は設けない)		救急医療センター(8週間) (救命救急科×2 または 救命救急科×1+ 救急診療科×1の いずれかを選択)	小児科 (NICU) (8週間)		選択科目(32週間) (4週間単位で選択可 能。※上限は設けない)		産婦人科 (8週間)		
		地域医療 (4週間)										

※一般外来研修4週以上を含む

①内科は全9診療科から3科を8週間ずつ選択

呼吸器・アレルギー内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、脳神経内科、腫瘍内科

②外科は以下より1つ選択する

呼吸器外科、心臓血管外科、消化器・一般外科、脳神経外科

③一般外来研修は内科、小児科、地域研修時に並行研修を行う

1年次で産婦人科の基礎、2年次で周産期重点、骨盤外科重点、生殖内分泌重点の各重点コースを個別に組み、専攻医へキャリアアップがスムーズに行える

昭和大学病院のNPO法人卒後臨床研修評価機構 (以下、JCEP) 認定病院の受審状況

- 初回認定 2013年1月1日 【認定2年】 (訪問調査)
- 第1回更新審査 2015年 【認定4年】 (訪問調査)
※ 2017年 (書類調査)
- 第2回更新審査 2019年 【認定4年】 (訪問調査)
※ 2021年 (書類調査)
- ◎ **第3回更新審査 2023年 【認定4年】 (訪問調査)**
※ **2022年12月5日 (訪問調査受審)**
2023年1月1日交付



<直近の認定証> 2022年12月5日受審

NPO法人卒後臨床研修評価機構の
評価委員会（2023年1月26日）
において審議がなされ、
2023年1月31日に認定証送付

<2022年12月5日受審時の主な対応者>

昭和大学病院長（自主尊重型プログラム責任者・研修管理委員会委員長・呼吸器・アレルギー内科教授）
 副院長（副プログラム責任者・消化器内科教授）
 副院長（医療安全管理部門・感染管理部門責任者）
 副院長（麻酔科教授）
 副院長（小児外科教授）
 小児プログラム責任者（小児科教授）
 産婦人科プログラム責任者（産婦人科准教授）
 副プログラム責任者：呼吸器外科教授
 副プログラム責任者：泌尿器科教授
 副プログラム責任者：循環器内科教授
 研修センター長
 看護部長
 薬剤部長代行、医療安全管理者（薬剤師）
 臨床検査室技師長（2名）
 放射線技術部技師長
 研修センター事務長、主査、係員
 人事部給与厚生課長（働き方改革担当）
 事務部長
 管理課長、管理課企画庶務係長、管理課係員：6名
 管理課管理係長（事務担当）
 クオリティマネジメント課長、係長
 医事外来課請求2係長（総サポ）、医事外来課診療録管理係長
 指導医：循環器内科講師（部署ラウンド・指導医面談）
 2年次研修医：自主尊重P、小児P、1年次研修医：自主尊重P、産婦人科P
 救命救急科助教（部署ラウンド）
 救急センター看護師長（部署ラウンド）
 総合サポートセンター看護師長（部署ラウンド）
 総合サポートセンターSW（部署ラウンド）

**2022年12月5日訪問調査受審時は
約40名が参加**

**当日のラウンド等の対応者も含めると
50名以上が当日に関わっている**

<受審に向けての対応等について①>

- 昭和大学全附属病院ではJCEP等の評価に準じた対応を指標として取り組んでいる。
- 2年ごとの書面調査・訪問調査となるため、各指摘事項を対応できるように研修管理委員会等で協議・対応報告を行っている。
- 当院では個別に「JCEP受審準備委員会」を約1年前から設置し、受審日に向け適宜改善等の報告を行っている。

<受審に向けての対応等について②>

- 業務量としては、昭和大学全附属病院はJCEPの評価項目を指標として取り組んでいるため過度な業務量とはならないが、院内ラウンドや各種調整・取りまとめについては担当者の負担がかかる。
- 調査のインターバルとして、書面調査や訪問調査が2年ごとに対応するには頻回であり、指摘事項に対する運用変更後の実施検証としても4年に1回の訪問調査が適切であると考ええる。

<公表について>

第三者評価受審後の公表は以下の媒体で行っている。

①正面玄関での認定証掲示

②病院ホームページ

※受審したこと

※認定を受けたこと

③病院広報誌

※認定を受けたことの報告

④院内（職員向け）掲示板

※受審後、1か月間程度

<サーベーターについて>

2022年12月の受審については、研修環境の改善を促すというよりは、指摘事項を探すようにサーベーターをされる方がおり、受審後に機構へ指摘を行った。

個人のキャラクターもあるが、サーベーター側も審査されているような仕組みが必要と考える。

(アンケート等によるサーベーターの評価)

また、公正・公平な考え方や指導が重要であり、病院の規模や運用に対しある程度、柔軟な考え方ができる方が必要と感じた。

その他、医学部における評価制度が実習・実地研修が中心となっており、研修医の評価も変わっていくため、カリキュラム等を理解した上で、サーベーターがなされることが良いと考える。

＜第三者評価の受審について＞

第三者評価は、より良い病院運営・環境等を整えるために「JCEP」や「病院機能評価」を当院では受審しております。

病院運営の一つの指標として取り組んでいくことは重要であり、同一の指針とすることで日本医療全体の指針とし、共通認識の基準で考えられる。

義務化に向けては、病院の規模間によって評価項目等が高いハードルとなる可能性も考えられるため、段階的な評価等も考慮した慎重な議論が必要と考える。



昭和大学
SHOWA University